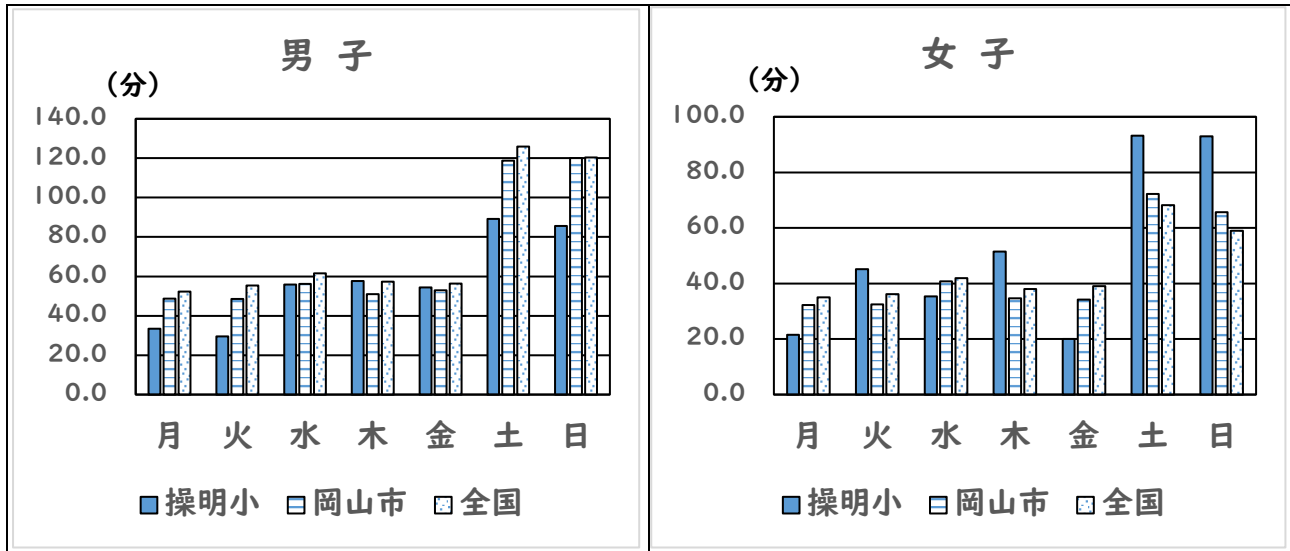


運動を通して笑顔に会える操明っ子

学校名	岡山市立操明小学校		校長名	遠藤 正和	
児童生徒数	573人	学級数	27	教職員数	41人

< 体育の授業以外の運動やスポーツの時間（曜日別） >

（令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から）



1 児童生徒の実態

〈運動習慣に関して〉

令和5、6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より、本校は体育の授業以外の運動をしている時間は、全国や岡山市の平均を下回っている。また、同調査の結果より、スポーツ少年団に通っている児童やスポーツの習い事をしており、土日に運動をしている児童がいる一方で、運動をする機会が少ない児童もおり、スポーツをやる・やらないが二極化している実態がある。また、本校の休み時間の運動場では、遊具、一輪車、フラフープ、なわとび台の開放がある。休み時間の児童の様子を見ると、外遊びをする児童の遊びはドッジボールや鬼ごっこのような決まった遊びを行っており、遊びが限られている実態が見られる。

〈体力に関して〉

令和元年度～令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より、どの種目も全国や岡山市を下回る結果だった。特に握力、長座体前屈、ソフトボール投げは全国・岡山市の平均を大きく下回った。したがって、これらの能力を高める運動機会をつくっていく必要があると考えられる。

2 取組の概要

このような実態を踏まえ、本校の目指す子ども像を「運動の大切さに気付き、運動を続けてみようと思える子ども」、「様々な運動に関心を持ち、慣れ親しむことができる子ども」と掲げ、児童が様々な運動を経験することができ、日ごろから運動を続けてみようと思えるきっかけになる取組が必要だと考えた。そこで、操明小学校では、スポーツ委員会が中心となり、3つの取組を行った。

おはようタイムの時間を活用した運動動画のTV放送

児童が「握力」「柔軟性」を伸ばすことができるように、2種類の動画を教職員で作成し、朝学習の時間の冒頭を使い、週2回の放送を行った。様々な教職員が動画に登場することで、児童が「今日は誰と運動できるかな。」と意欲的に取り組むことができる工夫をした。

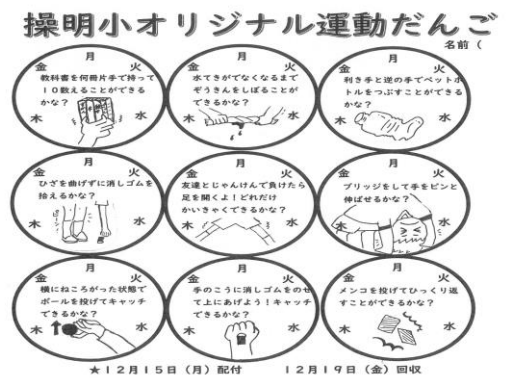


「操明小学校オリジナル運動だんご」の活用

児童に伸ばしてほしい力の3つである「握力」「柔軟性」「投力」を使った活動を精選し、本校の実態に応じたオリジナルの運動だんごを作成した。これらは岡山市小学校体育連盟の作成する運動だんごを元に作成した。

S1 グランプリの実施

児童が「握力」「柔軟性」「投力」を伸ばすことができるように、3つの競技を用意し、S1 グランプリを実施した。握力では、「のぼり棒を5秒間でどこまで登ることができるか。」柔軟性では、「どの低さまでリンボーダンスで通ることができるか。」投力では、「シャトルを投げてどれだけ飛ばすことができるか。」を競った。



〔シャトル投げ〕



〔のぼり棒〕



〔リンボーダンス〕

3 成果

おはようタイムの時間を活用した運動動画のTV放送

全ての児童にとって取り組みやすい活動を紹介することで、体を動かす気持ちよさを体感し、運動に興味・関心をもつことができるようにした。「今日は何年生の先生が出てくるのだろう。」と始業のチャイムよりも早く着席し、楽しみにしている児童の姿が多く見られた。座って取り組む運動を動画で提案したことにより、体を動かすきっかけ作りとともに、落ち着いた朝のスタートを切ることもつながった。

「操明小学校オリジナル運動だんご」の活用

「操明小学校オリジナル運動だんご」に取り組み、多くの団子を作ることができた児童が全校の3分の1だった。その中でも、室内で遊ぶ児童の多くがこの活動に参加することができ、運動するきっかけをつくることができた。活動をしていく中で友達と勝負をしていたり、昨日の自分と伸びを比べたりするなど普段の生活では見られない児童の姿が現れ、運動に主体的に取り組もうとする前向きな姿が見られた。

S1 グランプリの実施

多くの児童がS1 グランプリをきっかけに外に出て運動する姿が見られ、寒い時期でも元気に体を動かす機会をつくることができた。また、S1 グランプリを目指して、朝の時間や昼休みにのぼり棒の練習をして記録を伸ばそうとチャレンジする児童や互いに応援する児童が見られた。S1 グランプリを通して、遊具で遊ぶ児童が増え、様々な遊びに触れ合う機会をつくることができた。自分の記録を伸ばす児童や学年の最高記録を目指す児童など一人一人に合った楽しみ方で運動に取り組む姿が見られるようになった。

4 課題・今後の取組に向けて

来年度以降もS1 グランプリを継続していこうと考えている。そのために、持続可能なS1 グランプリになるように見直しをしていきたい。今年度は冬に大会を開催したため、気温が低く児童の外へ出ようとする意欲を高めることに苦労した。S1 の開催時期の再検討や外に出にくい冬までに児童が外に出て遊ぶ習慣をつくることのできるような工夫をしていきたい。また、年間を通して運動に親しむことができるような機会をつくるために、様々な委員会とコラボレーションをし、児童が中心となるものを企画していく。そして、学校での活動のみならず、家庭と連携してできるような活動についても提案していきたい。